

2026年9月19日

*本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

*本資料に記載の装備、諸元データは、いずれもドイツで販売予定のもので、日本仕様とは異なります。

アウディ、Audi A2 e-tron の生産を開始：スピード、効率性、そして競争力の向上

（ドイツ本国発表資料）2026年9月10日、インゴルシュタット：アウディはインゴルシュタットにおいて、Audi A2 e-tron の生産を開始しました。新型の電気自動車の最初の車両が生産ラインから送り出される様子は、バイエルン州首相 マルクス ゼーダー (Markus Söder) 氏にも見届けられました。アウディは Audi A2 e-tron の生産を通じて、自らの効率性を高める取り組みを進めています。開発期間を 21 カ月短縮し、仕様のバリエーションと複雑性を大幅に削減して、自動化レベルを高めました。既存の設備・生産施設は引き続き活用しています。

キーファクト

- ・ アウディはインゴルシュタット拠点で、完全電動の [Audi A2 e-tron](#) の生産を開始
- ・ 開発から量産準備完了までの期間は、従来の車両プロジェクトと比較して 21 カ月短縮
- ・ 部品点数の削減や、いわゆる「パールチェーン (string-of-pearls)」生産方式などの取り組みにより、複雑性、スペース要件、物流負荷を低減
- ・ Audi Cloud「Edge Cloud 4 Production」の活用は、工場全体をデジタルでつなぐ“コネクテッドファクトリー”の実現に向けた重要な一歩
- ・ AI アシスタントが従業員の情報検索をサポート

開発期間を 21 カ月短縮

アウディは Audi A2 e-tron の製品開発プロセスを大幅に短縮しました。開発から量産準備完了までの期間は、従来の車両プロジェクトと比較して 21 カ月短縮されています。過去の車両プロジェクトで得た知見と、合理化されたプロセスにより、調整に要する時間と工数が削減され、量産試作段階でより早期に完成度を高めることができます。

複雑性の低減による生産効率の向上

アウディは Audi A2 e-tron において複雑性を大幅に低減しました。このモデルは、顧客メリットを維持しながらも、生産に関わる部品点数の大幅な削減を実現しています。これにより、物流拠点の数も大幅に削減されます。その結果、物流に必要なスペースが縮小され、工場内での部材供給も簡素化されています。

アウディは今回インゴルシュタット工場において初めて「パールチェーン」生産方式を導入します。これは、ネッカーズルム工場ですでに成功を収めている方式で、顧客から注文を受けた車両の生産順序は、組立開始の 6 日前に決定され、その後、生産工程全体でその順序に沿って生産が進められます。こうした工場管理には、いくつもの重要な利点があります。順序が固定されることで、サプライヤーが正しい順序で部品を生産し、指定されたコンテナに梱包できるようになるため、プロセスの複雑性が軽減されます。さらに、保管エリアや車両を生産順に並べるエリアをなくすことで、生産工程のコスト効率も高めています。

柔軟性と資源効率

アウディは、Audi A2 e-tron のボディを、Audi A3 のボディと並行して生産しています。これを可能にしているのが、生産設備の柔軟なレイアウトです。ロボット溶接ガンや、他のアウディモデルの生産ですで使用されてきた約 250 台のロボットを含む、1,200 点以上の生産設備が、再利用または継続活用されています。

高い自動化レベル

アウディはインゴルシュタット工場の Audi A2 e-tron の生産におけるホイール取り付け工程を完全自動化しています。前後アクスル用のシャシー事前組立工程では、従来の半自動式ボルト締めステーションに代わり、完全自動化されたロボットステーションが稼働します。

アウディは、いわゆる「ピンピッキング」を採用して Audi A2 e-tron のボディショップでのプロセスを最適化しています。画像処理とカメラによるロボット制御を用いて、このインテリジェントな技術は、部品を認識しピックアップします。これにより、人間工学的に負荷の大きい作業を軽減できます。今回初めて、ロボットが、ランダムに配置されたコンテナから小さな板金部品を直接取り出し、次の生産工程へ供給することも可能になりました。

Audi Cloud と AI アシスタント

産業用クラウド「Edge Cloud 4 Production」は、組立工程のデジタルネットワーク化を支えています。Audi A2 e-tron の制御ユニットのコミッショニング(立ち上げ・機能確認)を行う「Universal Test System (ユニバーサル テスト システム)」、および車両のカスタマイズ情報を提供する、いわゆる「operator guidance (オペレーター ガイダンス)」は、いずれもクラウドから一元制御されています。これにより、組立工程で使用する産業用 PC を 450 台以上削減できます。

さらに、アウディは、生産拠点全体に AI (人工知能) を活用したナレッジアシスタントを導入しています。例えば Supply Chain Chatbot (サプライチェーンチャットボット) は、従業員が専門知識やプロセス、文書を検索する際に役立ちます。また、Maintenance Chat (メンテナンスチャット) は、保全チームによる故障分析や解決策の検討をサポートします。

Audi A2 e-tron が未来に必要なスキルを確保

Audi A2 e-tron の生産立ち上げの成功には、技術革新に加え、従業員のスキルを目的に応じて早期から育成してきたことも貢献しています。アウディは、実践的なトレーニングとバーチャルでの資格取得を組み合わせた多段階の教育プログラムにより、完全電気自動車の生産に求められる要件に従業員が対応できるよう準備を進めてきました。これは、組立ラインでの従来型の実践モジュールと、画面上でのバーチャル組立トレーニングといったデジタル資格取得コンセプトを組み合わせたものです。

Audi A2 e-tron の資格取得プログラムは、インゴルシュタット拠点における電動化への専門知識を強化し、将来にわたって重要となる知識を工場内に持続的に定着させています。従業員の継続的な資格取得は、新技術の円滑な立ち上げと、生産体制の継続的な発展において重要な要素です。

まとめ

Audi A2 e-tron は、アウディの生産体制の変革を象徴する事例です。複雑性の低減、高い自動化レベル、そして広範なデジタルネットワーク化は、アウディが工場の変革を推し進め、競争力を持続的に強化していることを示しています。同時に、人材は成功の中心的な要素であり続けています。最新のテクノロジーは、従業員の業務を的確にサポートするものです。

Audi A2 e-tron に関する詳細情報は、[メディアセット](#)でご覧いただけます。

Audi A2 e-tron の生産開始に寄せたコメント

「バイエルン州の人たちは、クルマを知っています。新しい Audi A2 e-tron の生産が、アウディの中核拠点であるインゴルシュタットで始まりました。アウディ史上最高効率を誇るこのモデルによって、『Vorsprung durch Technik (技術による先進)』という理念が改めて現実のものとなっています。これはインゴルシュタットという産業拠点、そして雇用にとって力強いシグナルです。バイエルンは自動車の州です。私たちは自動車産業を支持しています。主要産業である自動車産業が今後もこの地で発展し続けるためには、イノベーション、先端技術、そしてドイツのエンジニアリングが不可欠です。しかし、そのためにはグローバル市場での競争力の確保と規制の緩和が必要です。自動車に採用される技術は官僚的な規制によってではなく、市場によって決定されるべきです」。

— バイエルン州首相 マルクス ゼーダー (Markus Söder)

「Audi A2 e-tron は、私たちの変革を進める次なる一歩です。地域によって求められるソリューションは異なります。このモデルは、私たちが常に市場のニーズから逆算して発想していることを示しています。Audi A2 e-tron は欧州向けに開発され、インゴルシュタットで生産されています。これは、私たちが

これまでに製造した中で最も効率性の高いアウディであり、電動モビリティを日常使いに適したものにします。同時に、開発をより速く、生産をより効率的に行い、それによってドイツにおける産業的価値創造と競争力を強化するという、私たちの変革を具体的な形で実行していることも示しています」。

ー AUDI AG CEO ゲルノート デルナー (Gernot Döllner)

「インゴルシュタットにおける Audi A2 e-tron の生産開始は、私たちの拠点とその将来にとって力強いシグナルです。労使協議会として、私たちは特にこのことを誇りに思います。なぜなら、2019 年以来、従業員とともに、アウディがエントリーレベルの電気自動車を開発し、インゴルシュタットで生産することを、強い決意を持って繰り返し求めてきたからです。このプロジェクトは、技術力、産業的価値創造、そして従業員にとっての確かな将来性を象徴するものです。しかし何よりも、この生産立ち上げの成功は、仲間たちの多大な尽力と技量の賜物です。アウディにおいて Vorsprung durch Technik (技術による先進) は、単なる宣言ではなく、実現するものだということを物語っています」。

ー アウディ労使協議会議長 ヨルク シュラグバウアー (Jörg Schlagbauer)

「Audi A2 e-tron は、ドイツにおいて自動車を採算性を確保しながら製造できることを改めて示しています。この点で特に重要なのが、ネッカーズルムとインゴルシュタットの両拠点が共同で開発した AI アシスタント、高い柔軟性を備えた生産設備、そして何より従業員の専門知識です。このモデルは、複雑性を低減し、さらなる効率化を実現し、高度なデジタル化と自動化を推進することで、アウディの生産体制が変革していることを示しています」。

ー AUDI AG 生産およびロジスティクス担当取締役 ガード ウォーカー (Gerd Walker)

「Audi A2 e-tron の生産開始は、インゴルシュタット工場における幅広いチームワークの成果です。数多くの新製品立ち上げで培った豊富な経験を活かし、このモデルの量産立ち上げの成功に向けた基盤を築くとともに、プロセスをさらに最適化してきました。新型モデルの生産は、私たちの本拠地における中核的な能力を強化するものです」。

ー アウディ インゴルシュタット 工場長 ジークフリート シュミットナー (Siegfried Schmidtner)

よくある質問 (FAQ)

Audi A2 e-tron はどこで生産されますか？

Audi A2 e-tron の生産はインゴルシュタット拠点で、2026 年 9 月に開始されました。

アウディは Audi A2 e-tron の製品開発プロセスをどのように変えましたか？

アウディは Audi A2 e-tron の製品開発プロセスを大幅に短縮しました。開発から量産準備完了までの期間は、これまでの車両プロジェクトと比較して 21 カ月短縮されています。

アウディは Audi A2 e-tron の生産における複雑性をどのように低減しましたか？

生産に関わる部品点数を削減し、いわゆる「パールチェーン」生産方式を導入することによってです。

アウディは Audi A2 e-tron の生産にどのように自動化技術を活用していますか？

ロボットが Audi A2 e-tron のホイール取り付けを完全自動で行います。ボディショップでは、インテリジェントな「ピンピッキング」技術が、画像処理とカメラによるロボット制御を用いて、部品の自動搬送をサポートしています。

Edge Cloud 4 Production は、生産工程をどのようにサポートしていますか？

産業用クラウド「Edge Cloud 4 Production」は、組立ラインのデジタルネットワーク化を支えています。テストシステムおよびオペレーターガイダンスシステムは、クラウドから一元制御されています。アウディはまた、生産現場にさまざまなナレッジアシスタントを構築しています。AI (人工知能) を活用し、従業員が情報、文書、規定にアクセスしやすくしています。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

アウディ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

お客様お問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター

0120-598106



アウディについて

アウディは、プレミアムモビリティに先進のテクノロジーと革新的なデザインを融合させています。Vorsprung durch Technik（技術による先進）は、50年以上にわたり、アウディの技術に対する探求心を象徴してきました。

アウディは、さまざまな顧客ニーズや地域ごとの要件に応える、幅広いプレミアムモデルを展開しています。アウディ グループは、世界 100 以上の市場で事業を展開し、12 カ国 21 拠点の生産ネットワークを有し、世界で 8 万 8,000 人以上の従業員が働いています。アウディ ブランドの歴史は 1909 年にまで遡ります。2026 年からは独自のファクトリーチームとして Formula 1 にも参戦しています。

アウディ ブランドに加え、アウディ グループには、スポーツカーメーカーのランボルギーニ、ラグジュアリーブランドのベントレー、二輪車メーカーのドゥカティが含まれます。

アウディ グループの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。
